

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 3 月 5 日作成)

小委員会名	地域防災・復興小委員会	主 査 名：加藤孝明 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：有賀 隆
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. 公開研究会（或いは、公開小委員会）の開催を通して、被災地の復興、及び、南海トラフの被害想定地域での減災・防災の動きを共有する。 2. 「復興・減災の現状の動き」をテーマとするオーガインサイズドセッションを開催 3. 世界の復興事例（2009 年 PD）の成果をとりまとめて原稿とする。（WG1） 4. 事前復興・復興準備の取り組み状況を共有する（WG2）	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有	
	主査：加藤孝明（東京大学） 幹事：市古太郎（首都大学東京）、越山健二（関西大学）、牧紀男（京都大学） 委員：大西一嘉（神戸大学）、岡田成幸（北海道大学）、澤田雅浩（長岡造形大学）、竹谷真一（国総研）、廣井悠（名古屋大学）、紅谷昇平（神戸大学）、山田悟史（立命館大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	1. 復興事例刊行 WG：2009 年度大会 PD にてテーマとした世界の復興事例を活字化し、出版原稿を作成することを目的とする。 2. 事前復興・復興準備 WG：事前復興、或いは、復興準備の取り組みの事例収集、そのあり方について議論を行う。	
2014 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称) (資料名) 被害想定をどう読み解き、減災の取り組みにどう活かすか <div style="text-align: right;">参加者数 44 名</div> 2. (名称) (資料名) 『首都直下地震』：被害想定をどう読み解き、実際に起こり得る現象をどう理解すべきか～想像力を深めるべき災害事象～ <div style="text-align: right;">参加者数 79 名</div>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. シンポジウムを 5 月 23 日、1 月 28 日（予定）に開催した。災害現象が内在する不確実性への理解を深めた上で、被害想定を丁寧に読みこむことの大切さを社会に訴求した。また、それをふまえた今後の都市防災のあり方について議論を行うことができた。 2. その他の事項については後継の WG が引き継ぐ準備を行った。
委員会活動の問題点・課題	1. 関西在勤研究者が多いため、スケジュール調整が難しく、正規に記録される委員会開催日が少なくなった。なお、非正規の委員会開催は行われている。予算を使わない非正規委員会を記録に残せるしくみが必要である。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。